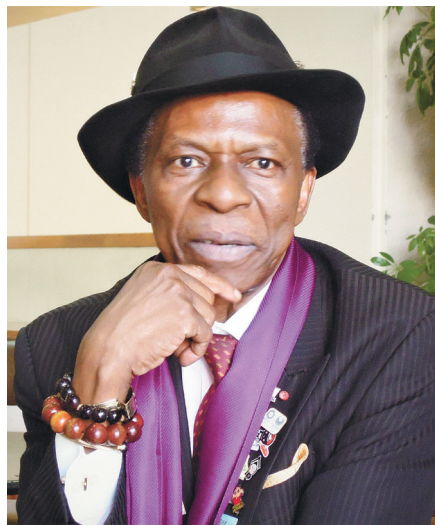


道の駅への期待

実は3月11日が誕生日なんです。来日して45年ですが8年前のその日、東京の地下鉄で東日本大震災に遭遇。車内は激しく揺れ死ぬかと思うほど怖かったです。避難指示があり地上に出ると都内は大混乱。この経験から毎年3・11は、米100^キを持って参りカレーなどの食事を作って被災者を支援するため、福島へボランティアに通っています。ホームヘルパー2級の資格もあり、介助もできるんですよ。

新潟県長岡市の「米百俵の精神」に感銘し同市と交流を続けており、今回のリレー防災セミナーにも米百俵のネクタイをしてきました。米百俵は長岡藩の小林虎三郎が実践した、子弟への教育こそが地域の将来を創るという教育精神。これに感銘して「ギニア・日本交流協会」を創設し、ギニアに小学校を建てる活動を続けてきました。母国では半日も歩いて学校に通う子供たちもいます。それでも教育は何より大切です。高校時代サ

米百俵の精神で防災セミナーに期待



ントが道の駅でもっと増えることを期待しません。機会があればいつでも話をしに来ます。「義理と人情」という言葉が大好きです。こうした日本の精神を大切にしたいと、いつも思っています。

【長岡市の米百俵の精神】

サッカーで負傷し障害者になって障害者手帳も持っています。が、障害に負けずに勉強して外交官になりました。

日本は地震や暴風雨などこれまで考えられなかったような自然災害がこんなに増えて、本当に驚いています。明日は何が起るか誰にも分かりません。とにかく命が大切なんです。まずは自分で準備することですね。でも、いつたん災害が発生したら、お互いに助け合うことが大切です。

防災セミナーのようないべ

幕末維新の戊辰戦争で長岡藩は焼け野原となったが敗戦後、文武総督・小林虎三郎は「学問や芸術を教え優れた人材を育成しよう」と明治2年、国漢学校を開校。同藩の窮状を知った支藩から米百俵が贈られた。藩士にはのどから手が出るような米だったが、小林は「必要な書籍、器具の購入に充てる」と米百俵を売却。国漢学校に注ぎ込み長岡の近代教育の基礎を築いた。